



鈴木農園で邑のみなさんと



スメは「しなす！」未成熟で小さな豆を「しなす」と呼び、わざわざ選んで食べるという話には驚きました。小さい方が豆がやわらかく水分を含み、食べやすいのだそう。「しなす」とは、「出来損ない」という方言のようですが、あえてそれを珍重して大事に食べる習慣は、もしかしたら食べ物大切に作る農家の思



岩本山とかりがね堤を守る邑の皆さんと。左から町田厚さん、落合一政さん、藤島 勝秋さん、坂本一吉さん、植田 強さん、鈴木 史浩さん、望月 照一さん、杉澤 數馬さん。



岩本山とかりがね堤を守る邑

いわもとやまとかりがねづつみをまもるむら

富士市岩本

- 車 / 東名高速富士 IC より約 20 分、富士川スマート IC より約 10 分、新東名高速新富士 IC より約 20 分
- 電車・バス / JR 身延線 柚木駅岩本山へは JR 富士駅から月～土運行のコミュニティバス利用



岩本山産直市は午後 2 時オープン！開店前には行列が！



地域内にもう一軒ある岩本山産直市は、午後 2 時からの開店です。かりがね産直市が朝の開店のため、あえて午後にはずらしたところ、これが功を奏し、開店前から行列ができる賑わいです。どこの直売所でも、午前中でよい品物がなくなる話を聞き

ひまわり畑が人気過ぎて、午後の産直市は大行列！

想なのかもしれませんね。教えてもらって頂いたしなすは、確かにやわらかくしっとり「しなす」！ハマりました。

映える畑で地域を守る

岩本山とかりがね堤を守る邑

明治から続く富士梨の産地 おすすめはナシとしなす!?

富士川の治水と新田開発のために、江戸時代初期、古郡氏が親子三代で築いた「かりがね堤」は、形が雁が連なって飛ぶ様子に似ていることからこの名が付けられました。全長 2.7 キロメートルに及ぶ堤防は、富士山の眺めと川風も心地よく、散歩やジョギングコースとして市民に親しまれています。

「岩本山とかりがね堤を守る邑」は、先人たちが築き、残してくれた農村景観を守っていくと、地元有志が集まって活動しています。拠点となっている JA 富士伊豆かりがね産直市を訪ねると、代表の杉澤數馬さん(71)や、望月照一さん(78)をはじめ、邑の皆さんが、旬真つ盛りの幸水と、朝どれの茹で落花生を準備して、もてなしてくださいました。約 70 名の会員を誇るかりがね産直市と、梨部会の会長を務める鈴木史浩さん(61)により、富士市は明治の時代から梨栽培が盛んで、「富士梨」と呼ばれ、かつては長十郎、今は、幸水、豊水、あきづきなどを 12 軒で栽培しています。水はけのよさと畑地灌漑の整備のおかげで、果樹から野菜まで、おいしい農産物がそろい、産直市は地元内外に人気です。

おもしろかったのは、昔から伝わる茹で落花生のこだわりです。おス

ますが、午後の方が助かる買い物客は多いかもしれません。時間をずらすアイデアは他の地域にもおススメしたいですね。

邑では、11 年前から地域の景観を守ろうと夏はひまわり畑、秋はそば畑にして農地を維持しています。夏空にひまわりの映える風景はテレビでも取り上げられ、SNS への投稿や結婚式の写真撮影など、大勢でにぎわうようになったそう。人気が出過ぎて路駐が増え、地元の農作業の車が通れなくなることが、たまにキズ。土地の管轄や景観保全の交付金の関係上、駐車場を設けたり、有料にすることはできず、今後の課題はありますが、多くの人の目に触れることで、新たな知恵や発想も生まれること、期待しています。

また、秋には収穫したそばを、地元の幼稚園などに 700 食、福祉施設に 800 食、合計 1500 食をふるまうなど、教育や福祉と連携した地域貢献もしています。子ども達から、御礼の手紙をもらうと、皆さん、大きな励みになるそうです。

これからの農業・農村は生産者任せではなく、町の人も巻き込んで、みんなで耕す時代です。都市の人にとっては農作業がストレス発散や健康づくり、食育や地元への愛着にもなります。高齢者から子ども達まで、みんなでかりがね堤を未来へ繋いでいきますように。

家族で営む鈴木農園。今年の梨は、県でも表彰されました！

茹で落花生は、小さくやわらかい「しなす」！

写真：宮崎 泰一

